

2020年度

事業報告書

自 2020年4月 1日

至 2021年3月31日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

目 次

I. 法人の概況	2
II. 管理業務	3
1. 役員及び評議員	3
2. 学生委員	3
3. 会議	3
4. 規程の制定等	5
5. 届出・登記事項	5
6. 事務局	6
III. 事業の実施状況	7
【公益目的事業】	
1. 大学等と連携したボランティア関連講座	7
2. 学生ボランティア活動の機会の提供	2 2
3. セミナー/シンポジウム	2 6
4. インターンプログラム	2 8
5. 教育活動支援	2 9
【その他センターの目的達成に必要な事業】	2 9
1. 情報発信	2 9
2020年度事業報告附属明細書	3 4

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2015年3月11日

2016年12月15日付けで公益認定申請書を提出し、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49条）の規定に基づき、2017年6月1日に認定を受け、公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、夢を描くことが最大の社会貢献となる若い学生の力を活かすため、学生ボランティア活動の支援を通じて、時代の一步先を目指す次世代を担う人材を育成するとともに、本邦及び海外の学生が行う公益活動への情報提供やサポートを行うことで、国内外の公益活動の活性化に寄与し、もって青少年の健全な育成と市民活動が日常となる、より良い社会の形成に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 学生ボランティア活動の支援
 - (2) 学生ボランティア活動を促進するための機会提供
 - (3) 学生ボランティア活動に関する情報の収集・発信
 - (4) 学生ボランティアのスキルアップ推進
 - (5) 学生ボランティアのネットワーク構築・運営
 - (6) 各種刊行物等の販売
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

4. 所在地 東京都港区虎ノ門1-11-2（日本財団第二ビル）

5. 基本財産の額

取得価額	時価評価額	差異
3,000,000	3,000,000	0

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

II. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

II. 管理業務の6. 事務局を参照

II. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

(1) 役員

2021年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」（30頁）のとおり、理事11名（会長1名、常務理事2名、理事8名）、監事2名である。

役員の異動は、井原理代理事が任期満了で退任した。

(2) 評議員

2021年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」（31頁）のとおり、4名である。

評議員の異動は、原田勝広評議員が10月27日付けで辞任した。

2. 学生委員

第19回理事会で選任された学生委員は、別表3「学生委員名簿」（32頁）のとおり、6名である。

3. 会議

(1) 理事会

①第19回理事会

時 期：2020年6月8日（月）書面決議

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会

決議事項：

第一号議案 2019年度事業報告 承認の件

第二号議案 2019年度決算報告書 承認の件

第三号議案 評議員会の招集 承認の件

第四号議案 2020年度学生委員会委員の決定

②第20回理事会

時 期：2020年7月1日（水）書面決議

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会

決議事項：

第一号議案 定款第26条第2項に基づく会長及び常務理事の選定について

③第21回理事会

時 期：2021年3月10日（水）書面決議

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する
同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会

決議事項：

第一号議案 2021年度事業計画及び予算書 承認の件

第二号議案 規1号 職員就業規則及び、達第10号 育児・介護休業等に関する規則の一部改正 承認の件

(2) 評議員会

①第9回評議員会

時 期：2020年6月25日（木） 14:07～15:15

方 法：Zoom利用によるオンライン会議

報告事項：

監事監査報告

2019年度事業報告

審議事項：

第一号議案 議長の選任

第二号議案 2019年度決算書の承認

第三号議案 理事、監事、評議員の選任

第四号議案 その他

(3) 学生委員会

学生ボランティア支援に際し、不可欠なのは学生自身の視点である。その視点から学生ボランティアのニーズを吸い上げる目的で、2020年度学生委員会を発足させた。委員は6名で、センター実習生、地方大学在籍者、留学生、センター事業参加者、ボランティア活動に従事している者などが選任された。

2020年度は一度も集まることなく実施し、オンラインでのコミュニケーションを意識的に図りながらの委員会となった。

委員会を4回開催し、第21回理事会においては、センター事業に対して委員会での検討をもとに提案をまとめた報告書を提出した。

①第1回委員会

日 時：2020年6月20日（土） 20:00～22:00

方 法：Zoom利用によるオンライン会議

参 加 者：委員6名、職員1名

議事要旨：・委員へのセンター設立趣旨・事業概要説明と質疑応答

・各委員より自己紹介（ボランティア活動を行う動機を含む）

・学んでいる専攻やそこから見えてくる社会課題を共有し、今後のテーマ決め

②第2回委員会

日 時：2020年8月8日（土）10：00～12：10

場 所：センター、オンライン（Zoom）

参加者：委員6名、職員1名

議事要旨：
・コロナ禍で顕在化した課題についての意見交換
・理事会への提案に向けたスケジュールの確認
・次回の開催場所と内容について意見交換

③第3回委員会

日 時：2020年12月13日（日）13：00～15：00

方 法：Zoom利用によるオンライン会議

参加者：委員6名、職員1名

議事要旨：
・センター事業へ参加後の意見交換
・センターへの提案内容についての意見交換
・次回の開催場所と内容について意見交換

④第4回委員会

日 時：2021年2月22日（月）13：00～15：00

方 法：Zoom利用によるオンライン会議

参加者：委員6名、職員1名

議事要旨：
・センターへの提案内容の決定

4. 規程の制定等

- ・規1号 職員の就業規則の一部改正

5. 届出・登記事項

（1）内閣府へ提出

- ・役員変更届（理事の退任）
- ・役員変更届（評議員の辞任）
- ・「2019年度事業報告書」の提出
- ・「2021年度事業計画書等」の提出

（2）登記事項

- ・役員変更登記（7月）
- ・役員変更登記（11月）

6. 事務局

(1) 機構

2021年3月31日現在における事務局の機構は、別表4（33頁）のとおり、2部である。

(2) 人員

2020年度は、職員に異動はなく、2021年3月31日現在における職員は1名、契約職員は4名である。

Ⅲ. 事業の実施状況

【公益目的事業】

学生が行うボランティア活動を支援するため、資金協力、スキルアップセミナー、ボランティア派遣、教育活動支援など幅広い事業を実施した。なお、各事業の報告については、次のとおりである。

1. 大学等と連携したボランティア関連講座

本事業は、大学の教育力を広く拡充し、学生のボランティア活動及び社会参画の推進を図る講座やプログラムを大学等と連携して実施した。これは、学生時代のボランティア活動をはじめとする社会参画が、全人的な人間成長に寄与するというセンター設立当初よりの考え方に基づいており、教育改革に積極的な大学やその関係機関と協力協定を締結するなど、協力関係を構築した上で進めている。

協定締結について

2021年3月31日現在で大学54校、短期大学1校、大学連携組織2団体と協定を締結している。なお、大学コンソーシアムひょうご神戸には大学等40校、東部地域大学連携には大学3校が加盟しており、2020年度までで合計98校との協力関係が構築された。また、2020年度の大学等との新規協定締結は、大学3校、1組織（構成は3大学）であった。

(五十音順)

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
1	愛知淑徳大学	コミュニティ コラボレーションセンター	2014年 10月 1日	
2	青山学院大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
3	亜細亜大学	全学	2017年 5月 23日	
4	茨城大学	全学	2019年 11月 1日	
5	岩手大学	三陸復興・地域創生推進機構	2017年 10月 31日	
6	追手門学院大学	全学	2013年 3月 1日	
7	大阪大学	大学院ビジネス エンジニアリング専攻	2012年 11月 1日	
8	大阪府立大学	ボランティアセンター V-station	2011年 5月 1日	

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
9	岡山大学	全学	2018年 7月 17日	
10	お茶の水女子大学	全学	2017年 2月 23日	
11	嘉悦大学	全学	2011年 7月 1日	
12	関西国際大学	全学	2017年 4月 1日	
13	神田外語大学	全学	2018年 2月 1日	
14	京都産業大学	全学	2017年 4月 1日	
15	熊本学園大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
16	熊本大学	熊本創生推進機構	2019年 8月 1日	
17	公立鳥取環境大学	全学	2018年 5月 1日	
18	埼玉工業大学	全学	2018年 4月 1日	
19	順天堂大学	スポーツ健康科学部 さくらキャンパス学生部	2011年 2月 1日	
20	聖学院大学	全学	2017年 12月 1日	
21	成蹊大学	ボランティア支援センター	2017年 4月 1日	
22	星槎大学	全学	2017年 4月 1日	
23	聖心女子大学	全学	2014年 3月 1日	
24	摂南大学	全学	2017年 4月 1日	
25	大正大学	全学	2017年 7月 1日	
26	高崎健康福祉大学	全学	2017年 4月 1日	
27	千葉大学	国際教養学部	2012年 3月 1日	

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
28	中央大学	学生部	2014年 3月 1日	
29	津田塾大学	学外学修センター	2017年 4月 1日	
30	東京外国語大学	全学	2020年 11月 17日	○
31	東京海洋大学	全学	2012年 5月 1日	
32	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	2017年 12月 21日	
33	東北福祉大学	総合マネジメント学部	2012年 4月 1日	
34	東洋大学	全学	2017年 4月 1日	
35	徳島文理大学	全学	2017年 10月 1日	
36	常葉大学	全学	2019年 12月 16日	
37	鳥取大学	全学	2018年 5月 1日	
38	長崎大学	全学	2019年 4月 1日	
39	新潟青陵大学	全学	2017年 7月 1日	
40	新潟青陵大学 短期大学部	全学	2017年 7月 1日	
41	日本文理大学	全学	2012年 4月 1日	
42	東日本国際大学	全学	2020年 3月 10日	
43	広島修道大学	全学	2017年 12月 6日	
44	福山市立大学	全学	2015年 9月 1日	
45	法政大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
46	北海道教育大学	函館校	2020年 8月 18日	○

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
47	松本大学	全学	2017年 2月 1日	
48	明治学院大学	ボランティアセンター	2011年 12月 1日	
49	明治大学	ボランティアセンター	2015年 12月 11日	
50	立教大学	総長室社会連携課	2015年 7月 1日	
51	立正大学	社会福祉学部	2017年 11月 1日	
52	了徳寺大学	全学	2013年 11月 1日	
53	麗澤大学	全学	2011年 8月 1日	
54	和歌山大学	紀伊半島価値共創基幹	2020年 12月 1日	○
55	早稲田大学	平山郁夫記念 ボランティアセンター	2010年 6月 1日	
56	大学コンソーシアム ひょうご神戸	コンソーシアム	2015年 4月 1日	
57	東部地域大学連携	九州産業大学 福岡工業大学 学術支援機構社会連携室 福岡女子大学 地域連携センター	2020年 10月 1日	○

(1) 学内中心の講座やプログラム

大学内を中心としたボランティアについて学ぶ単位科目や課外講座などの開発や実施を行った。

- ① 実施大学：追手門学院大学、熊本学園大学、聖学院大学、聖心女子大学、中央大学、東北大学、立教大学、了徳寺大学

② ボランティア活動の基礎知識を学ぶ講座

ア. 聖学院大学

講義名：ボランティア体験の言語化技法と実践

学 期：前期

内 容：受講者自身の参加したボランティア体験の振り返り方を学び、言語化技法としてのプレゼンテーションと文章化を実践した。（オンラインでの実施）

講義名：釜石学

学 期：前期

実施日程：2020年7月2日(木)

内 容：阪神淡路大震災から東日本大震災以降の現在に至るまでの、震災とボランティアについての講義を行った。（オンラインでの実施）

イ. 聖心女子大学

講義名：ボランティア体験の振り返り

学 期：前期

内 容：自分がこれまでに行ったボランティア活動・社会貢献活動を振り返り、またその活動を他人に伝えることの意味を考えて言語化を行った。（オンラインでの実施）

ウ. 立教大学

講義名：ボランティア論—新しい価値の創造—

学 期：前期

内 容：ゲストスピーカーを迎えて、実際のボランティアのニーズ、活動を生かすための仕組み、ボランティア自身の気づき、活動が与えるインパクトがどのようにリンクし合っていくのかを、学生が具体的にイメージしながら考察できるような授業を行った。（オンラインでの実施）

エ. 了徳寺大学

講義名：人間関係実践演習 I

学 期：前期

実施日程：2020年6月12日(金)

内 容：ボランティアの概説、学生ボランティアの現場や可能性について、他大学の学生もゲストを迎えて講義を行った。（オンラインでの実施）

③特定のテーマでのボランティア活動や社会課題を考える講座

ア. 追手門学院大学

講義名：社会問題リサーチ演習 2

内 容：社会問題の一例としてのハンセン病問題に関するゲストによる講義、

長島愛生園のビデオツアーを行った。(オンラインでの実施)

イ. 熊本学園大学

講義名：災害ボランティアスキルアップセミナー

実施日程：2020年7月13日(月)

内容：令和2年7月豪雨の被災地で活動する方から、コロナ禍で熊本地震や熊本豪雨などの被災地での災害ボランティアをどのように行えばよいのか、考え方や実践的な手法を学んだ。(オンラインでの実施)

ウ. 中央大学

講義名：現代社会分析Ⅱ

学期：後期

内容：社会問題を法の観点から議論するための題材として東日本大震災を扱い、「法の意味・はたらき・課題」を考えるため、オンラインで被災地とつなぐリモートフィールドワークと、クラスでの講義やグループワークを行った。(オンラインでの実施)

エ. 東北大学

講義名：ボランティア入門講座

実施日程/テーマ： 2020年7月 21日(火)/ 震災後のまちづくり・避難者ア
ーカイブ(福島)
7月 31日(金)/ 子ども支援
8月 21日(金)/ 伝承&防災
復興・地域支援
8月 28日(金)/ マイノリティ・貧困(外国人・
路上生活者支援)
海外支援・国際交流
9月 4日(金)/ ボランティアについて考えるワ
ークショップ

内容：ボランティアの支援現場で活動している専門家・実務家から社会課題を学んだ。ニューノーマル時代におけるボランティア活動について考えることを目的とする。

講義名：東日本大震災からみる現代社会

学期：後期

内容：「震災と避難の課題」「防災と震災伝承の課題」「震災遺構と語り部」

「原発事故とそれ以降の地域復興の現状と課題」「東日本大震災と子ども教育と生活の課題」などのテーマについてゲストを招いた講義を行った。

講義名：被災地復興の課題に取り組む

学 期：後期

内 容：東日本大震災被災地でのボランティア活動に従事する学生の増加を目的として、津波被災地や原発事故被災地を対象とした正課科目を開講し、原発事故被災地、津波被災地で課題解決に向けた取り組みを行う支援者をゲストとして招き講義を行った。なお、フィールドワークも企画をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。

講義名：課外・ボランティア活動研修会

実施日程：2020年12月2日(水)、12月22日(火)

内 容：学生ボランティアリーダー育成のため、「性の多様性」「課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止」というテーマで研修を行った。

④新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施方法や実施の有無などについて協議をしたが、実施までに至らなかった事業

ア. 神田外語大学

講 座 名：ボランティア入門講座

イ. 聖心女子大学

講 義 名：グローバル共生研究V（災害と人間－3. 11以後の社会と文化－）

ウ. 千葉大学

講 義 名：学生ボランティア実践入門

(2) 学外中心のプログラムや講座

大学外を中心としたボランティア活動の実施や社会課題の現地調査を行い、単位科目もしくは課外活動として実施した。

① 実施大学：愛知淑徳大学、熊本学園大学、熊本大学、中央大学、東北大学、北海道教育大学函館校、大学コンソーシアムひょうご神戸、東部地域大学連携

②授業やゼミでの実習やボランティアセンターなどが主催したプログラム

ア. 愛知淑徳大学

事業名：にじいろ☆キャンプ

活動日程：2020年11月13日（金）～ 11月15日（日）

参加者：19名

活動場所：岐阜県大野郡白川村

内容：外国にルーツを持つ中高生を対象に、将来を考えるきっかけを提供するキャンプを行った。

イ. 熊本学園大学

事業名：令和2年7月豪雨災害ボランティア

内容：被災家屋の土砂出し、片づけや水に浸かった家具の移動などの作業を行った。

日程/活動場所/人数：

2020年	7月	25日(土)	/ 熊本県人吉市/	16
2020年	7月	27日(月)	/ 熊本県人吉市/	22
2020年	8月	1日(土)	/ 熊本県人吉市/	13
2020年	8月	9日(日)	/ 熊本県八代市/	11
2020年	8月	25日(火)	/ 熊本県八代市/	15
2020年	8月	30日(日)	/ 熊本県八代市/	8
2020年	9月	4日(金)	/ 熊本県葦北郡芦北町/	11
2020年	9月	5日(土)	/ 熊本県葦北郡芦北町/	8
2020年	9月	12日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	11
2020年	9月	20日(日)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	10
2020年	9月	27日(日)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	13
2020年	10月	3日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	11
2020年	10月	10日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	19
2020年	10月	17日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	10
2020年	10月	24日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	11
2020年	10月	31日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	16
2020年	11月	7日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	8
2020年	11月	14日(土)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	9
2020年	11月	29日(日)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	8
2020年	12月	13日(日)	/ 熊本県球磨郡球磨村/	6

2021年 3月 21日(日)/熊本県球磨郡球磨村/ 9
 計：実施回数 21回 延べ参加者総数 245名

ウ. 熊本大学

事業名：令和2年7月豪雨災害ボランティア

内容：避難所での物資の仕分け、被災家屋の土砂出し、片づけや水に浸かった家具の移動などの作業を行った。

日程/活動場所/人数：

2020年	7月	19日(日)	/熊本県人吉市/	6
2020年	7月	26日(日)	/熊本県球磨郡球磨村/	7
2020年	8月	11日(火)	/熊本県葦北郡芦北町/	7
2020年	8月	19日(水)	/熊本県球磨郡多良木町/	16
2020年	8月	24日(月)	/熊本県球磨郡球磨村/	11
2020年	8月	30日(日)	/熊本県球磨郡多良木町/	8
2020年	9月	9日(水)	/熊本県球磨郡多良木町/	3
2020年	9月	13日(日)	/熊本県球磨郡多良木町/	3
2020年	9月	18日(金)	/熊本県人吉市/	10
2020年	9月	22日(火)	/熊本県球磨郡多良木町/	7
2020年	10月	10日(土)	/熊本県球磨郡多良木町/	4
2020年	10月	17日(土)	/熊本県球磨郡球磨村/	4
2020年	10月	24日(土)	/熊本県球磨郡多良木町/	6
2020年	10月	31日(土)	/熊本県人吉市/	9
2021年	1月	10日(日)	/熊本県球磨郡球磨村/	1
		10日(水)		
2021年	2月	12日(金)	/熊本県球磨郡球磨村/	3
		15日(月)		
2021年	2月	17日(水)	/熊本県球磨郡球磨村/	6
		23日(火)		
2021年	2月	25日(木)	/熊本県球磨郡球磨村/	6
		18日(木)		
2021年	3月	20日(土)	/熊本県球磨郡球磨村/	12

計：実施回数 19回 延べ参加者総数 129名

エ. 北海道教育大学函館校

事業名：地域政策ボランティア実習Ⅰ

活動日程：2020年8月27日(木)～9月10日(木)

参加者：2名

活動場所：北海道勇払郡厚真町

内容：2018年9月の北海道胆振東部地震被害が大きかった地域にて、農業、学童の補助などを行った。

オ. 東部地域大学連携

事業名：九州産業大学・農業ボランティア

活動日程：2021年3月13日(土)

参加者：47名

活動場所：福岡県大牟田市

内容：令和2年7月豪雨の被害が大きかった地域にて、田畑の土砂出し、流れ込んだ木材の撤去などを行った。

③企画をつくり上げ、実施する活動

ア. 東北大学

事業名：震災伝承ツアー

活動日程：2020年11月29日(日)

参加者：21名

活動場所：宮城県気仙沼市

内容：県外から来た新生生を主なターゲットとし、震災当時の様子とその体験を後世に伝えることの大切さを学ぶツアーを実施した。

イ. 大学コンソーシアムひょうご神戸

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」学生スタッフ研修

活動日程：2020年5月～2020年7月

内容：オンライン会議システムの基本的な使い方やミーティングの仕方などを学ぶ研修を複数回にわたって実施した。(オンラインでの実施)

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」現地ヒアリング

活動日程：2020年11月～2021年2月

内容：オンラインにて、兵庫の学生と熊本県の学生や令和2年7月豪雨被災地の方々がつながり、現地のニーズなどを知り、どのような活動を展開させるか考えていった。(オンラインでの実施)

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」熊本チーム活動

活動日程：2021年2月～3月

内容：オンラインにて、熊本県人吉市の住民の方との交流、対面にて兵庫県三木市の小学生とのワークショップなどを複数回にわたって行った。
(オンラインでの実施)

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」岡山チーム活動

活動日程：2021年3月

内容：オンラインにて、岡山県立矢掛高等学校の高校生、卒業生と兵庫県の学生が、平成30年7月豪雨被害とその後について考えるワークショップを行った。(オンラインでの実施)

④学生主体のボランティア活動の促進

ア. 中央大学

事業名：東北関連活動「はまぎくのつぼみ」

活動日程：2020年9月3日(木)、4日(金)、5日(土)、10月上旬

活動場所：岩手県宮古市とつなぐオンラインもしくは遠隔

内容：仮設住宅・災害公営住宅でのコミュニティ支援の今後のあり方を現地の方々と一緒に考えるため、オンラインでのヒアリングや郵送でアンケート調査を実施した。(オンラインでの実施)

事業名：「ふらっと真備」

活動日程：2020年9月2日(水)、11月10日(火)

活動場所：岡山県倉敷市とつなぐオンライン

内容：倉敷市社会福祉協議会にご協力いただき、仮設住宅の方々とオンラインでつなぎ交流会を実施した。(オンラインでの実施)

⑤新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施方法や実施の有無などについて協議をしたが、実施までに至らなかった事業

ア. 青山学院大学

事業名：ボランティアセンター学生スタッフ研修

イ. 茨城大学

事業名：台風19号被災地への支援の実施

ウ. 追手門学院大学

事業名：東北支援プロジェクト～普代村・村づくり支援プログラム～

エ. 聖心女子大学

講義名：グローバル共生研究Ⅶ（〔連携講座〕日本財団学生ボランティアセンター 地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト）

事業名：SHOC projectスタディツアー

事業名：USHひとづくり・まちづくりボランティア in 南相馬

オ. 摂南大学

事業名：遠隔地におけるボランティア活動

カ. 千葉大学

講義名：持続的地域貢献活動実習

キ. 中央大学

事業名：東北関連活動「チーム女川」

事業名：東北関連活動「面瀬学習支援」

事業名：熊本関連活動「チームくまもと」

ク. 津田塾大学

事業名：ブリッジ・ザ・ギャップ ボランティア創発プロジェクト

ケ. 東北大学

事業名：被災地アンバサダー ベイラー大学とのプロジェクト

事業名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

コ. 東北福祉大学

講義名：まちづくり論

サ. 長崎大学

事業名：ボランティア体験バス

シ. 福山市立大学

講義名：専門演習Ⅱ

ス. 法政大学

事業名：多摩ボランティアセンター・チームたまモン

セ. 松本大学

事業名：千曲川水害被災地への支援の実施

ソ. 明治大学

事業名：アメリカンフットボール部によるボランティア活動の実施

タ. 立教大学

講義名：RSLープロジェクト・プランニング

チ. 早稲田大学

事業名：米式蹴球部によるボランティア活動の実施

(3) オンラインでの活動の実施

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地での活動が実施できない中、現地とのつながりを保ち続けるため、オンラインもしくは遠隔にて活動を実施した。

① オンラインの特性を活かして、遠方の方を講師として招くことも可能となった。

実施大学：青山学院大学、神田外語大学、聖学院大学、聖心女子大学、中央大学、東北大学、東京外国語大学、新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部、明治大学

② オンラインもしくは遠隔による活動

ア. 青山学院大学

事業名：コロナ状況下でできるボランティアをオンラインで考える

実施日：2020年5月9日(土)

内容：オンライン会議ツールの基本的な使い方を実践しながら、コロナ状況下でできるボランティアを考える会を実施した。

事業名：オンライン版「あすチャレ! Academy」

実施日：2020年12月2日(水)

内容：日本財団パラリンピックサポートセンターによる障がい者やパラスポーツへの理解を深める体験型の講座を実施した。

事業名：動物愛護団体きすあに講演会

実施日：2020年12月15日(火)、2021年1月20日(水)、
2月16日(火)

内容：アニマルウェルフェア向上・環境保全への意識を高めてもらうために、地球環境と自己実現、畜産におけるアニマルウェルフェア、アスリート

とヴィーガンといったテーマでの講演とディスカッションを実施した。

イ. 神田外語大学

事業名：オンライン版「あすチャレ! Academy」

実施日：2020年12月15日(火)、12月17日(木)

内容：日本財団パラリンピックサポートセンターによる障がい者やパラスポーツへの理解を深める体験型の講座を実施した。

ウ. 聖学院大学

事業名：オンライン会議研修

実施日：2020年4月28日(火)

内容：オンライン会議システムの基本的な使い方やミーティングの仕方などを体験しながら学ぶ研修を実施した。

事業名：オンライン会議研修(ボランティアリーダー向け)

実施日：2020年6月1日(月)

内容：東日本大震災被災地などで活動する学内サークルのリーダー向けに、オンライン会議システムの基本的な使い方やミーティングの仕方などを体験しながら学ぶ研修を実施した。

事業名：オンラインボランティアサポーター養成講座

実施日：2020年8月21日(金)、9月9日(水)

内容：オンラインでの活動やイベントに関わる技術的なサポートやレクチャーを担うボランティアを養成するために基礎知識を学ぶ講座を実施した。

事業名：新入生歓迎ボラ Tea

実施日：2020年11月18日(水)、2021年2月5日(金)

内容：当初4月に対面で実施予定であった企画をセンターのRemoを使用して実施した。

エ. 聖心女子大学

事業名：Ecoマスクプロジェクト

活動日程：2020年8月～2021年3月

内容：学生が作製する布マスクを頒布する際に献金を受け取り、かねてより学生のボランティア活動の受け入れをしている福島県南相馬市の被災地復興支援のために寄付をするプロジェクト。3月7日(日)には、現地の方々を招き活動報告会を兼ねたイベントをオンラインにて実施した。

事業名：SHOC project オンライン講演会

活動日程：2021年3月1日(月)

内容：例年は福島県いわき市へスタディツアーに行っていたが、2020年度は現地に行く活動は実施できなかった。代わりに現地で活動をしている団体の方にお話を伺う勉強会をオンラインにて実施した。

オ. 中央大学

事業名：オンライン会議研修

実施日：2020年8月21日(金)

内容：オンライン会議システムの基本的な使い方やミーティングの仕方などを体験しながら学ぶ研修を実施した。

カ. 東京外国語大学

講義名：震災・洪水の被災地を学ぶ

～福島でのオンラインフィールドワーク～

活動日程：2021年2月14日(日)～16日(火)

内容：福島の災害を学ぶため、現地の方々と学生とをオンラインで接続し実施した。現地の方へ直接インタビューすることで、震災後10年の現地の状況を理解し学習した。インタビュー内容は「聞き書き」という手法により一つの記事にまとめることで、現地の方々の置かれた状況、考え方等の理解の深化を促した。

キ. 東北大学

事業名：オンラインワークショップ入門～今こそ考えるボランティア活動の意義～

実施日：2020年5月19日(火)

内容：オンライン会議システムの基本的な使い方やミーティングの仕方などを体験しながら学ぶと同時に、自分たちの団体がコロナ禍で何ができるかを考える研修会を実施した。

ク. 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部

事業名：オンライン会議研修

実施日：2020年4月30日(木)

内容：オンライン会議システムの基本的な使い方やミーティングの仕方などを体験しながら学ぶ研修を実施した。

事業名：オンライン版「あすチャレ！Academy」

実施日：2021年1月20日(水)

内容：日本財団パラリンピックサポートセンターによる障がい者やパラスポーツへの理解を深める体験型の講座を実施した。

ケ. 明治大学

事業名：オンラインのコツ講座

実施日：2020年10月6日(火)、10月13日(火)、
10月20日(火)、10月27日(火)

内容：オンラインで疲れない、楽に話す工夫やさまざまなオンラインツールを体験することなど、学生の興味関心に合わせて実施した。

事業名：オンライン・ファシリテーション講座

実施日：2020年10月15日(木)、10月22日(木)

内容：参加者が安心できるオンライン会議やそこでのファシリテーションなどを実践して学ぶ講座を実施した。

事業名：オンラインボランティアセンター

実施日：2020年12月3日(木)～2021年3月25日(木)年末年始を除き
13回

内容：例年、各キャンパスにて開所しているボランティアセンターを、週1回オンライン上にて、センターのRemoを使用して開所した。

事業名：卒業生と話そう！キャリアと学生時代のボランティア

実施日：2021年1月16日(土)、2月27日(土)

内容：卒業生のボランティア体験や現在のキャリアを聞くことで、今後の学生生活や就職をイメージして、ボランティア活動に参加することを促す講座を実施した。

2. 学生ボランティア活動の機会の提供

本事業は、学生が社会や世界で起きている問題を「他人事」から「自分事」として捉えるようになり、行動を起こしていくための機会を提供した。

派遣先の選定については、自然災害による被災地はもちろんのこと、これまで学生ボランティアのニーズがあった地域とし、オンラインで繋ぐ形式で実施した。

実施にあたっては、必ずオリエンテーションと振り返りの時間を設け、参加した学生が学びを深められるような機会を提供した。

(1) 学生ボランティアの派遣

①オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

2013年から現地での活動を続けてきた福島県いわき市は、2019年の台風19号でも甚大な被害を受けたが、台風被害への支援が続く中、コロナ禍により現地での活動は休止することとした。

現地の方々とも相談し、チーム「ながぐつ」プロジェクト福島のオンライン版として、学生の学びを深め、学生と現地とのつながりを保ち続けるための機会を提供した。

<活動内容>

日程	◆1日目◆ オリエンテーション (16:00～ 17:00)	講話 (17:00～ 18:30)	食事 準備 時間	交流会 (19:30～ 20:30)	◆2日目◆ 活動 (9:00～ 10:30)	振り返り (10:30～ 11:30)
内容	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 今回の趣旨 被害状況などの概要説明 ゲスト紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 台風19号やコロナ、震災等々について 随時質問 感想共有 	夕食の準備	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 各自、福島の食材を使用して準備したご飯を食べながら交流 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストのお話 感想&質疑応答 商品の説明 実食 発信内容の考案 発表 感想共有 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート 振り返り

活動内容としては、震災、台風と被害を受けた現地の方から、発災当時から現在までの様子や、ご自身が行っている支援活動の内容をお話いただいた。

また、福島県における活動を始めた当初から継続している農業支援先の農家の方からも、発災当時から現在までの様子、風評被害の経験等をお話しいただいた。参加者が農家の方に対しオンラインでできる支援として、伺ったお話や取り扱っている商品を、SNS発信を通して広めていくという活動を行った。

<活動状況>

回	活動日程	延べ参加者数	大学数
1	10月24日(土)～10月25日(日)	11	6
2	11月7日(土)～11月8日(日)	12	5
3	12月5日(土)～12月6日(日)	23	9
4	12月12日(土)～12月13日(日)	18	8
5	2月18日(木)～2月19日(金)	15	6
6	2月27日(土)	2	2

2020年度延べ参加者数：81名 参加者所属大学総数：25大学

※オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島の延べ参加者数は「参加人数×活動日数」で算出している。

② チーム「ながぐつ」プロジェクト緊急災害支援

近年日本各地で発生する大規模な自然災害等で、助力が必要な地域において、その必要性に応じて、学生を被災地へ派遣した。

ア. 令和2年7月豪雨ボランティア派遣

7月は全国的に大雨となり、なかでも7月4日～7日にかけての記録的な豪雨による甚大な被害を受けた熊本県において、コロナ禍のなか県内学生のみによる活動を行った。

陣	活動日程	派遣地	参加者数	活動内容
1	11月8日(日)	熊本県球磨郡球磨村神瀬地区	4	家屋の清掃と釘抜き
2	11月15日(日)	熊本県人吉市駒井田地区	5	壁と天井及び床板剥がし
3	11月22日(日)	熊本県球磨郡球磨村多武除地区	4	床下の泥出し、食器洗い
4	11月29日(日)	熊本県人吉市上薩摩町	4	壁と天井及び床板剥がしと撤去作業及び泥だし

③ 学生災害ボランティア オリエンテーション動画の制作

学生が災害ボランティアとして活動する前に、大事にしておきたい考え方や基礎知識が学べる約5分の動画を6つ制作した。(計30分55秒)

No.	タイトル	内容
1	きほんのき	学生の活躍、学生だからできること、活動の参加を迷っている学生へ向け、多くの学生ボランティアに関わってきた方へのインタビューも交えて紹介している。
2	心と身体の健康	事前の健康管理から当日の注意点、活動後に気をつけることなど、専門家へのインタビューやイラストを交えてわかりやすく紹介している。
3	装備と持ち物	何が必要なのか、なぜ必要なのか、実際に学生が身に付けていく様子を見ながら確認できる動画と、活動する際に必須のボランティア保険についても紹介している。
4	一日の流れ	災害ボランティアとして個人で行く際の一日の流れを、一つの例として紹介している。発災時にはボランティアをコーディネートする役割も担っている方から、災害ボランティアセンターに関する説明をいただいている。

No.	タイトル	内容
5	出発前の心構え	特に心がける必要があることを、事前の準備から当日気をつけるべきことまで、専門家へのインタビューなども交えて紹介している。
6	活動の振り返り	自分が行った活動の意義、自分が経験した唯一無二の経験、そして次の活動への動力とするための振り返りの重要性を伝えている。災害ボランティア経験のある卒業生へのインタビューも交えて紹介している。

(2) プラチナ未来人財育成塾チューターへの支援

プラチナ未来人財育成塾では、プラチナ社会実現に寄与する未来のリーダー育成を目的として全国の中学生に対してオンラインにて講義とワークが行われた。

夏は23名、春は10名の学生が、講師と中学生をつなぐ役割を担い、中学生の学習支援や個別相談などを行った。

ア. プラチナ未来人財育成塾@オンライン事前研修

実施日程：2020年7月～8月

場 所：オンライン

参加者：23名

所属大学数：16大学

内 容：育成塾の基礎知識獲得と予行演習の実施、当日のシミュレーション

イ. プラチナ未来人財育成塾@オンライン

活動日程：2020年8月15日(土)、8月16日(日)、8月22日(土)、
8月23日(日)

方 法：オンライン

参加者：23名

所属大学数：16大学

内 容：グループワークの進行

ウ. 2021年春期プラチナ未来人財育成塾@オンライン事前研修

活動日程：2021年2月～3月

方 法：オンライン

参加者：10名

所属大学数：9大学

内 容：育成塾の基礎知識獲得と予行演習の実施、当日のシミュレーション

エ. 2021年春期プラチナ未来人財育成塾@オンライン*

活動日程：2021年3月25日(木)～3月26日(金)

方 法：オンライン

参加者：9名

所属大学数：8大学

内 容：グループワークの進行

*本企画は主催が菊池市教育委員会及びプラチナ構想ネットワークであり、事業計画で実施予定であった『『森の学校・きくち』へのチューター派遣』と同様に菊池市の中学生も対象として実施された。

3. セミナー/シンポジウム

本事業は、学生ボランティアのスキルアップやネットワーク構築を目的としてセミナーやシンポジウムを開催した。

(1) PR力コンテスト「V-1」

学生ボランティアの社会への発信力を育成するために、昨年度と同様、学生個人のボランティア体験もしくは身近な人のボランティア体験をインタビューした内容を綴った文章を募集し、優秀な作品を表彰するコンテストを行った。

募集期間：2020年12月24日(木)～2021年2月19日(金)

審査日：2021年3月6日(土)

審査員：池田 真隆氏(オルタナS編集長)

泉本 亮太氏(北海道新聞記者)

藤原 愛氏(NPO法人NICE海外短期派遣事業部長)

審査結果：グランプリ 後藤 ななみさん(聖心女子大学現代教養学部2年)

優秀賞 玉之内 菖さん(聖学院大学心理福祉学部3年)

(2) ボランティア・シンポジウム

全国でボランティアに取り組む学生や関心のある学生が、これまでのように、全国の学生が一堂に会して対面で行うことが難しい状況のなか、オンラインのみで複数回にわたって大学の地域・専門を超えて学びあい、ネットワークづくりにつながるシンポジウムを実施した。

① コロナ禍での学生災害ボランティアについて熊本の2大学に聞く会

開催日時：2020年9月12日(土)

参加者：22名

内 容：令和2年7月豪雨で被災地での発災直後からの活動がコロナ禍においてどのように行われたのか、熊本大学・熊本学園大学のボランティア担当教員より伺った。参加者の半数ほどが他大学の教職員であった。

②ボランティアのためのオンラインツール活用術

開催日時：2020年11月4日(水)

参加者：8名

内容：イベントやセミナーなどで参加者の繋がりを広げ深めるためのオンラインツール活用術を、カンファレンスツール『Remo』を通して学んだ。

③引き出し、対話の場のチカラ

開催日時：2020年12月11日(金)

参加者：10名

内容：誰もがストレス無く安心して参加できるワークショップについて、傾聴やグループワーク、グラフィックレコーディングなどの手法も体験しながら学んだ。

④ボランティア体験を振り返り発信するための文章力向上講座

開催日時：2020年12月26日(土)

参加者：18名

内容：自分の体験を文章にするアウトプットに加え、ほかの人の体験をインタビューして引き出し、それを文章にするアウトプット・インプットの手法を現役の新聞記者から学んだ。

⑤学生がコロナ禍に地域と関わり成長するメソッド

開催日時：2021年1月23日(土)

参加者：9名

内容：オンラインで大学の授業や実習に参加しつつ福島で活動した学生とプロジェクトの仕掛け人から話題提供をしてもらい、コロナ禍での地域での活動を考えた。

⑥より伝わる作文のための文章力向上講座

開催日時：2021年2月4日(木)

参加者：14名

内容：参加者から事前に文章を提出してもらい、講座の中で現役の新聞記者が添削を行い、伝わる文章とは何かを学んだ。

⑦「性差(ジェンダー)の日本史」ワークショップ

開催日時：2021年2月25日(木)

参加者：23名

内容：話題となった国立歴史民俗博物館「性差(ジェンダー)の日本史」代表を

ゲストに日本のジェンダーの歴史と反響を伺い、これからのジェンダー観を考えた。

⑧全国学生ボランティアフォーラムへの協力

開催日時：2021年3月13日(土)、3月14日(日)

方 法：オンライン

内 容：ボランティア・シンポジウムと親和性の高いイベントへの協力として、センターとの連携大学への広報、センターのR e m o 貸与、オンラインのサポートなどを行った。

(3) 災害ボランティア養成セミナー

災害時に学生がボランティアとして迅速に活動できるよう、協力協定を締結していない和歌山信愛大学にて、4回のセミナーを実施した。

開催日時：2020年10月27日(火)、10月28日(水)、
11月18日(水)、11月24日(火)

参加者：162名

内 容：和歌山県南部は大学が所在せず、南海トラフ巨大地震や水害等の際にボランティア派遣の可能性がある。熊本地震や令和2年7月豪雨における大学の活動、宮城県での東日本大震災後の活動とキャリア形成などを題材として実施した。

4. インターンプログラム

本事業は、学生目線からボランティアの支援を行うため、2020年度インターンを採用した。インターンはボランティア・シンポジウムやその他のセンター事業等の補助を行った。2020年度インターン修了者は、5名である。

活動期間：2020年4月9日(木)～2021年3月20日(土)

(1) オンラインによるコミュニケーション

開催日：2020年4月～2021年3月

内 容：全員が直接集まることは一度もなく、オンラインにてプログラムを進めた。センター事業を知り、自分たちに何ができるのかを考え、お互いを知るワークショップなどを行った。

(2) 自主企画「若手社会人と話そう！キャリアと就活とボランティア」

開催日：2021年2月13日(土)

方 法：オンライン

参加者：13名

ゲ ス ト：河野 誠也氏 (教育関連会社勤務)

ディンセ 華純氏 (IT系コンサルティング会社勤務)

鳥海 花菜氏 (SNSマーケティング会社勤務)

福田 佳奈子氏 (衛生用品メーカー勤務)

藤原 愛氏 (国際交流NPO勤務)

山本 賢氏 (インフラ業勤務)

内 容 : 学生時代にボランティアを経験した社会人から、仕事へと繋がった気付きや取り組みを学んだ。

(3) a c a r e (アクア)

公 開 日 : 2021年3月19日(金)

内 容 : 本年度のa c a r eのタイトルは「大学生とコロナ~大学生が考える大学というところ」とし、コロナ禍において大きな影響を受けた大学生が、大学や授業の意義を考えることをコンセプトとして作成した。当事者である大学生や大学の教員の生の声を聞くため、アンケート調査とインタビュー、大学生の座談会を実施し、記事を作成した。

(4) 2021年度インターン募集

募集期間 : 2021年1月30日(土) ~ 3月16日(火)

募集定員 : 8名

応募人数 : 9名

対 象 : インターン実施期間において、大学や大学院に在籍していること。

選 考 : 応募者に対して、役職員による面接を実施した。

5. 教育活動支援

教育活動支援は、学生の成長や高等教育機関にとっての教育効果を重視し、協力協定を締結していない大学の教職員、学生らと、年間を通じてボランティアプログラムを協働開発し実施する事業である。九州産業大学と覚書を締結し、2020年8月に令和2年7月豪雨による被害があった朝倉市において活動予定であったが、学生間で新型コロナウイルス感染のクラスターが発生したため、中止とした。

【その他センターの目的達成に必要な事業】

1. 情報発信

ボランティアに興味・関心を寄せる学生たちがホームページへ訪れるよう、学生が閲覧しやすいホームページのリニューアルに力を入れた。

全体的なテイスト変更に加え、新たに「沿革」、「過去の学生インターン紹介」、「インターン卒業生の今」、動画「5分でまなぶ 学生災害ボランティア」、センターの”中のヒト”の日常を伝える「ガクボブログ」を導入した。

別表 1

役員名簿

(2021年3月31日現在)

役 職	氏 名	現 職
代表理事 (会長)	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長
常務理事	小西 龍治	立命館アジア太平洋大学 客員教授
〃	澤田 佳彦	公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター
理 事	赤澤 清孝	大谷大学 准教授
〃	工藤 健夫	一般社団法人S o L a B o 代表理事
〃	栗田 充治	亜細亜大学 名誉教授
〃	小島 祥美	東京外国語大学 准教授
〃	西尾 雄志	近畿大学 准教授
〃	二宮 雅也	文教大学 准教授
〃	吉村 充功	日本文理大学 教授
〃	渡邊 一馬	一般社団法人ワカツク 代表理事
監 事	浅井 清澄	M o o r e 至誠監査法人 公認会計士
〃	鈴木 浩司	公益財団法人日本海事科学振興財団 常務理事

別表2

評 議 員 名 簿

(2021年3月31日現在)

氏 名	現 職
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長
清 水 潔	弁護士
松本 美奈	一般社団法人Qラボ 代表理事
村上 公一	早稲田大学 教授 早稲田大学系属早稲田実業学校 学校長

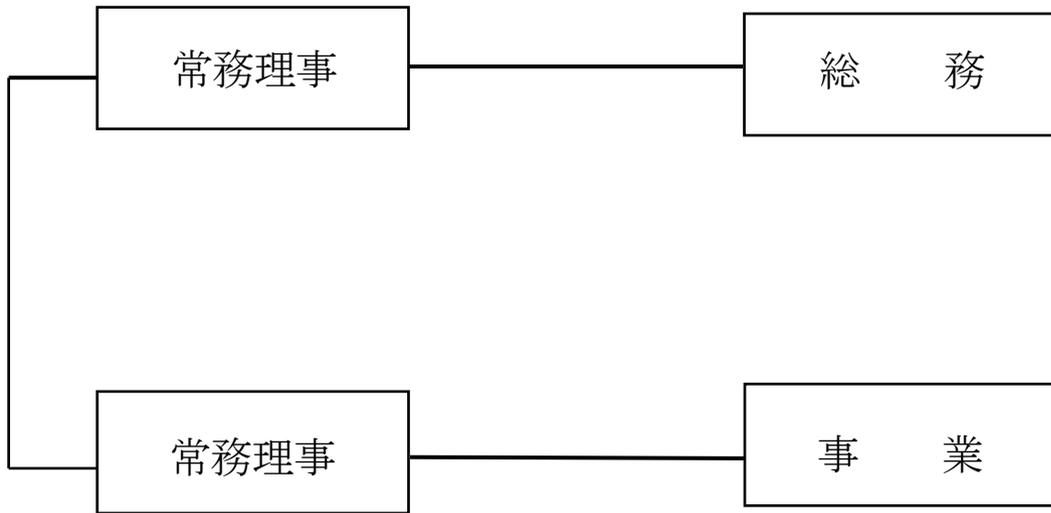
別表3

学 生 委 員 名 簿

(2021年3月31日現在)

氏 名	所 属
加藤 小凜	常葉大学 3年
玉之内 菖	聖学院大学 3年
永田 侑大	芦屋大学大学院 修士1年
野村 俊介	東北大学 3年
ペギー ペルマタサリ	東京外国語大学 2年
美坐 友里菜	熊本大学 2年

事務局機構図



2020年度事業報告附属明細書

2020年度事業報告附属明細書は、「一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2021年5月

公益財団法人
日本財団学生ボランティアセンター

前記のとおり相違ありません。

2021年5月21日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

代表理事（会長） 小 宮 山 宏

2020年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 浅 井 清 澄

監 事 鈴 木 浩 司

